

平成22年度 森林総合研究所営事業 事後評価 技術検討会 「利根沼田区域」 議事概要

1. 実施日 平成22年7月23日(金曜日) 10:00~12:00
2. 場所 農林水産省農村振興局第4会議室
3. 出席者 技術検討会委員 浅野 耕太 京都大学大学院教授
" 安藤 光義 東京大学大学院准教授
" 片岡 美喜 高崎経済大学准教授
" 山路 永司 東京大学大学院教授
(敬称略、五十音順)
事務局等 農林水産省農村振興局整備部農地資源課調査官 他
(独)森林総合研究所森林農地整備センター審議役 他

4. 技術検討会の概要

- (1) 委員長選出
委員長に山路委員を選出した。
- (2) 事後評価(案)について事務局より説明。
- (3) 意見・指摘等
技術検討会の意見として、次のとおり取りまとめられた。
 - ① 区画整理等で整備された農地では、労働生産性が向上し、農地の集団化や拡大が可能になった。この結果、観光果樹園の増加・規模拡大や、高原野菜の規模拡大が行われるなどにより、農業後継者が新たに育ってきており、地域の農業の発展に寄与していることが確認できた。
 - ② 整備された農業用道路やその沿道にJAの配送センターや集出荷施設が計画的に配置されていることにより、農業資材等の集出荷の円滑化や土壌条件に応じた施肥設計のほ場での具体化が容易になるなど、地域における農業生産管理の緻密な対応が可能となっており、JAを中心とした産地の高度化が実現されている。
 - ③ 農業生産面においては、農業用道路に接続するインターチェンジが開設されたことなどにより、東京方面への良いアクセス経路ができ、例えば、朝どりレタスの生産量が拡大している。
 - ④ 農業用道路の整備により、ほ場や施設へのアクセス時間が短縮し、本区域外への出作による担い手農家の規模拡大に繋がっている。また、ほ場の見回りが容易になったことでレタス等の栽培管理のクリティカルポイントを見逃す危険性を減じ、品質の向上に繋がっていることが現地で確認できた。
 - ⑤ 朝どりレタス等高原野菜産地ではパート労働者も雇用されており、早朝から収穫が始まるが、農業用道路の整備により労働者の通勤時間が短縮され、通勤負担が軽減したことにより仕事の効率が向上するなど、農業用道路の整備が労働者の負担軽減に役立っていることが現地で確認できた。

- ⑥ 農業用道路は、本地域の生活環境や観光の面でも大きな役割を果たしていることが確認できた。生活環境の面では、集落間の行き来や学校への送迎という面でも非常に役に立っている。また、観光面では利根沼田望郷ラインを利用して観光農園や直売所等の拠点を廻ることができ、集客力の向上に寄与している。

以上のとおり、本事業の実施により生産基盤が強化され、雇用が創出され、地域農業が活性化したことが確認できた。とりわけ、河岸段丘で分断された地域において、農業用道路整備が地域の一体化をもたらした効果は大きく、貨幣換算しにくいところではあるが、未利用資源の活用や地域の魅力の創出もなされており、本事業が地域の社会的な土台づくりに寄与していると考えられる。

なお、「評価書の評価項目6 今後の課題等」でも書かれているが、今後さらに地域農業の持続的発展を図る必要がある。